令和６年度　第２回学校運営協議会

１　日　時　　令和６年 10 月 28 日（月）　10:00～12:00

２　会　場　　静岡県立東部特別支援学校　会議室

３　参加者　　＜学校運営協議会委員＞

伊豆市児童発達センター長	大川　紀美子　様
相談支援事業所リベルテ主任	竹村　夏絵　様
寺家区副区長	鈴木　二三哉　様
韮山ライオンズクラブ会長	柿島　貴之　様（欠席）
伊豆医療福祉センター サポートセンターみらいず相談支援専門員	杉本　智司　様
東部特別支援学校同窓会　コスモ　代表	小野　珠世　様
東部特別支援学校ＰＴＡ会長	熊野　万起子　様

＜学校職員＞

校　　長	長崎　良夫
副　校　長	池上　千穂
教　　頭	佐藤　公平
事　務　長	望月　孝一
小学部主事	小林　暉長
中学部主事	後藤　佑美
高等部主事	西村　雄一
教 務 課 長	齋田　祐亮

４　会議次第　　司会　副校長

10:00	開会
10:00～10:05	校長挨拶
10:05～10:35	授業参観
10:35～11:40	協議　（１）今年度の風水害対応 （２）個別の防災計画作成について
11:40～11:50	感想、意見交換等
11:50	事務連絡
12:00	閉会

５　その他

第３回学校運営協議会　　令和７年　２月 10 日（月）午前 10 時から正午まで

令和６年度　第２回学校運営協議会　議事録

令和６年 10 月 28 日（月）10:00～12:00

１　校長挨拶

今年は災害の印象が強く残る年だった。「天災は忘れたころにやってくる。」と言われるように、詩的なフレーズに置き換えると言葉は伝わりやすくなる。先日の南海トラフの臨時情報の内容についてあまり分かっている人は少なかった。正しく知って、正しく恐れることが大切。「備えあれば患いなし」と言われるように、防災対策をしっかりと行っていきたい。今回委員のみなさんから防災の意見をいただき、今後の学校運営に活かしていきたい。

２　校内参観

・子どもたちの授業の様子を参観

・校内の防災用品などの見学

（子どもたちの防災用品、防災用の道具、備蓄品など）

３　協議

(1)　今年度の風水害対応

学校：年度始めに「悪天候・地震にともなう対応」について保護者に周知している。本校は学区が広いこと、身体障害や医療的なケアが必要な子どもが多いため、早めの対応を意識している。判断は、気象庁の「キキクル」を基にしている。前日から検討を始め、３段階で対応方法を判断し、保護者にメール配信している。授業中の大雨や特別な対応が必要になった場合は、早めの迎えをお願いしている。震度５以上の地震や南海トラフ臨時情報が出た場合も、冷静な対応をとれるよう準備をしている。

学校：「キキクル」のサイトの説明。

今年度の休校の状況について説明（４日間の休校の判断について）。

6/18 大雨でスクールバスが立ち往生した際の状況、学校周辺の冠水箇所について説明。

今後の有事の際、伊豆の国市防災教育推進協議会に参加した際に災害情報等は、伊豆の国市教委に連絡をとり対応方法を確認することになった。

委員：令和２年度に PTA で「いのちのしおり」作成したがコロナ禍ということもあり、あまり浸透していなかった。今年度様々な災害があったことから、PTA でもう一度見直し改訂を行い、全校保護者に配信した。今まで自分の住んでいる地域の情報は得ていたが、学校が所在している伊豆の国市の情報を知ろうとしていなかった。学校は、正しい判断をしているという感覚だったが、それぞれ住んでいる地域が違い事情も違うので、自分たちで状況を判断する必要があると感じた。また今回の経験から、状況を見て、自主休校をすることも選択肢の一つだということを保護者間で共有していきたいと思った。6/18 の大雨で改めて学校の周辺は冠水しやすい土地柄と学習できた。そういったことから、今まで１階にあった防災用品を２階に置くことを学校にお願いした。学校がスピード感をもって対応してくれてよかった。今後は、放課後等デイサービスなどとも情報を共有していかなければいけないと感じた。

委員：これから伊豆の国市の教育委員会から情報を得ていくと聞いたが、今までそうではなかったことに驚いた。隣の伊豆の国特別支援学校との判断は違うのか。

学校：県のガイドラインは決まっているが判断は学校ごとになっている。本校は子どもたちの実態から

安全に準備できるよう早めに対応するようにしている。気象庁の「キキクル」の予報があたらないこともあるので、大雨にならない場合もある。

学校：先日の冠水時は、伊豆の国特別支援学校は、伊豆箱根のバスなので、会社から情報を得て、別の道を走ることで子どもたちの送迎ができた。判断が必要な時は、お互いに連絡を取り合ってはいる。

委員：学校によって判断が違っている、と耳にすることがあるがどうか。

学校：市町で揃えている地区もあるが、三島や沼津は学校裁量で行っている。市や地区によって違っている。学校で判断をする難しさがある。

委員：伊豆の国市も緊急時は学校で判断している。
大きな地震があった時は、SNS やメールは伝わらないことがある。学校は安全なので、そこに迎えにくるような体制をとっていくとよい。伊豆の国市は震度５強から対応している。震度５弱ではあまり被害は出ない。

委員：何年か前に夜間に大雨があった時、在校生の家族が学校に避難してきたが、学校が開いていなくて伊豆医療に避難したことがあった。どのくらいの災害の時、学校は避難所として開設されるのか。またどんな人が避難できるのかが分かったら教えてほしい。

学校：伊豆の国市の避難所は、基本的には市町が LINE 等で情報を流し開設している。本校も伊豆の国市の広域避難所として開設される。伊豆医療センターには２階を貸すようになっている。基本的には、学校が開いている時間は職員が対応できるが、休みの日や夜間等の対応は難しい。
市町の全体像、学校、保護者の描いているものが違っている。協議の場を持ちながら、足並みを揃える場を設ける必要がある。

委員：災害時に学校と自治会が約束をしている地区もある。どういう受け入れになっているかは、市町によって全然違う。沼特は原の自治会と連携を取り始めている。

委員：子どもが通っている時よりも、防災用品が増えて対策ができていると感じた。台風だけでなく、最近は線状降水帯など急激な天候の変化もあり、判断が大変になっていると感じている。

委員：一昨日、浜松のみをつくし特支のサバイバルキャンプにリモートで参加し、個別避難計画について学習した。最近、読めない天気が多くなってきている。早く帰る訓練だけでなく、その場に留まる訓練も必要。被害情報が確認できるまでは、留まるといった判断もこれから取り入れていく必要がある。教訓を生かして、本校独自の訓練としてやってはどうか。有志の参加でもよい。
休校の判断の是非については結果論である。本校は校区が広く、子どもたちのリスクも高いので、引き続き慎重に判断してほしいい。大雨にならなくても、被害が出なくてよかったと声を出していった方がよい。判断することは難しいので、学校が責められるのは違うと思う。

(2)　個別の防災計画作成について

学校：9/28 に伊豆の国市の個別避難計画の調整会議に参加。本校の卒業生も２人参加した。手引きに基づいて作成した。学校にいる時間は１年間の６分の１。６分の５にあたる部分は、居住地での避難を考えていく必要がある。個別避難計画をうまく活用して支援のボリュームをもって対応できるようにしていく。手を挙げる（申請する）ことで、個別支援の対策が進む。

委員：伊豆の国市では、申請を行うと市から各地区に情報がおり、自治会に伝えるようになっている。

委員：現在要支援者名簿の登録は行っているが、個別避難計画の作成までできていない。重症度の高い方から取り組んでいるが実際どこまでできているか。本校でも何人やっているか。自分の市町ときちんと避難計画を立てていく必要がある。計画書を作ると、誰がどうやるか、具体的な

行動を考え、行政が対応を考えてくれる。避難所まで一緒に歩いて段差などを確認してくれる。

委員：相談支援専門員やケアマネージャーが個別避難計画を立てるお手伝いもできる。話を聞くことで、改めて知ることが多くある。避難所に行くだけが全てではない。行かないという判断も地区の民生委員の方に知ってもらうことができた。また避難所が開設されたら、こうあってほしいという困りごとなど具体的な話をすることもできた。

４　事務連絡

次回の連絡と学校関係者評価の記入のお願い。